

第5期第3回生涯学習センター運営協議会議事要旨

〔日 時〕 2020年9月28日（月） 午後2時～4時

〔場 所〕 町田市生涯学習センター ホール

〔出席者〕 ※敬称略

委 員：陶山慎治（会長）、古里貴士（副会長）、相澤真理、荒井仁、荒井容子、
大野浩子、白崎好邦、関村浩、堂前雅史、西澤正彦、服部くに子、山口隆三、
以上12名（内リモート参加3名）

〔欠席者〕 なし

事務局：塩田センター長、田中担当課長、岡田管理係長、高木事業係長、三橋主任

〔傍聴人〕 なし

〔資 料〕 【1】 都公連資料

【2】 今後の検討及び町田市生涯学習審議会への諮問について

【3】 生涯学習センター利用に関するアンケートについて

【4】 今後の開催スケジュールについて

1 報告事項

（1）センター長報告

- ・9月の市議会定例会一般質問では、直接、生涯学習センターに関わる質問はなかったが、1人の議員から「戦後75年目の節目に際して町田市の対応を問う」という、市の平和に関する取組の質問があり、生涯学習センターの平和祈念事業を含めて答弁している。
- ・毎年10月に「生涯学習センターまつり」を実施している。当センターを日頃利用いただいている団体の、活動・成果発表の場、団体同士のつながりを広げる機会として実行委員を公募し、企画、運営をお願いしている。今年度は、コロナ禍の中で多くの方に来場いただくイベントを実施できるかどうか議論を重ねた結果、集合型開催は見合わせ、インターネット型「センターまつり」を開催することになった。参加を希望する団体から活動風景や作品、成果発表などの写真（画像）、動画、資料を提供いただき、ホームページ上で紹介する形式を考えている。「新しい生活様式」を意識した、生涯学習センターまつりを実施する予定である。

【委員質問・意見➡事務局回答】

- ・センター祭りはどのぐらいの日程でどんな形で行うのか。今、子どもたちは文化祭をリモートで行っているが、サーバーが落ちたりスムーズにっていないなどもある。➡ホームページ上で写真や資料、動画で各団体の紹介をする。写真は1団体30枚まで。掲載や加工は事務局が行う。期間は11月1日～3月末まで。広報まちだで募集する。

（2）東京都公民館連絡協議会について

○白崎委員から資料に基づき報告

- ・1月24日開催の都公連研究大会は集合形式では行わない。資料やDVDの配布、オンデマンド配信などが議論された。
- ・課題別集会は集合形式でも書面形式でもできるように進めている。
- ・10月24日の委員部会研修会は実施する。
- ・前半の情報交換テーマ「新型コロナ状況下で閉館中の公民館で何ができるか、何をしたか」は各市の情報が集約された。町田市はコロナ禍でもオンライン学習を始めた。公民館が1館しかないというマイナーな捉え方をされているが、こういうことができたことは、1館でも充実したスタッフがあって力が集約できていることを心に留め、その特異性は利用できると感じた。
- ・後半の情報交換テーマは「公民館だより、公運審だより等の情報交換手段についての各市の特徴と課題」

【委員質問・意見➡白崎委員回答】

- ・今各市で工夫してやっているが、これを見ると町田市はオンラインなど進んでいるように思う。工夫してやっている市はどこか。➡市によってばらつきはあるが、東大和市のZoomでの活動は公民館が行っているのではなく、利用者が開館するまで待つのではなく始めた。国立市は過去の講座を市ホームページに掲載した。各市工夫してやっている。
- ・有名人の講演はオンライン実況する話などでしていないのか。➡出ていない。

(3) 今後の検討及び町田市生涯学習審議会への諮問について

○事務局から資料に基づき説明

- ・生涯学習センター運営協議会委員の任期は2年間で、市は、ほぼ同時期に生涯学習センターのあり方を検討する。市は、その検討のため2021年1月に生涯学習審議会に諮問する。この審議会でも検討いただくための原案を年内に作成するため、アンケートを9月下旬から実施する。
- ・運営協議会委員の意見は、年内は原案に反映させ、来年は審議会委員でもある会長を通して反映する。来年・2021年10月に審議会から答申が出された後は、それを受けて市が作成する実行計画に意見を反映する。

【委員質問・意見➡事務局回答】

- ・アンケートは良い。年代別に郵送したほうが良いと思う。➡センター利用者の他、市民センター等利用者に対して直接職員が手渡しで実施する。また、市政モニターにおいて、契約200名に対して郵送で依頼する。
- ・予定になっている市民センターはぜひやってほしい。回答目標はどのくらいか。➡市民センターは部署が違い調整前のため予定と表記した。サンプル数は400以上を目標にしている。

- ・年代別の目標は➡利用者から取るため、意図的に特定の年代から取ることは考えていない。夜間の若い方たちの利用や家庭教育講座の子育て中の方などから取ることも考えている。
- ・このアンケートは運営協議会の中間まとめとは関係なく、生涯学習審議会の答申のためということでよいか。アンケートを取るなら、その内容について審議したほうが良い。どこが焦点になるのか想定して聞かないと誘導的アンケートになりやすい。回答する方たちは、民間事業者が入るとサービスが向上するのか低下するのか、それ自体分からないというのが普通。例示されている施設の評価は対立している。そのあたりも分からないのに答えるのは、何も分からないのに答えるという感じになりがち。利用者に聞けば、その学習や話し合い、自分たちの目で見るチャンスがあって初めて意見が出せる。運営協議会が意見を言える立場でないなら、本当に利用者はどう考えているか運営協議会でも調査した方が良い。
- ➡審議会に諮問するための諮問案作成のための基礎資料として徴集する。運営協議会は、生涯学習センターの事業に対してご意見や評価をいただく会議のため、本来の主旨とは違っているが、あり方検討に対してご意見を頂くため、情報提供として報告した。
- ・問6の「一事業や施設の運営を民間事業者が行うことを、どう思われますか？」の事業は運営協議会に係る部分である。事業の内容が民間事業者任せられるのか、任せられないのか、どういう場合に違いが出てくるのか、良くなるのかなど、考えられる状況になって初めてアンケートに答えられる。このアンケートでは十分な意見聴取はできないと思うという運協委員の意見を審議会に伝えてもらいたい。
- ・この6か所の施設をネットで調べた。具体的にこのアンケートをとって町田市はどのようなイメージを持っているのか、どの程度の事業を任せると見えてこなかったのも、アンケートは難しいと思った。中高生の意見も知りたいが、一方的にアンケートを送っても答えてくれない。実際に子どもたちから取るのであれば対面形式で説明して積極的に取ってほしい。

【会長】 この後の議題の中で議論を深めたい。

2 議 題

(1) 審議会答申・改革プランを踏まえた生涯学習センター事業の推進について

○会長から、第1回会議で同意された協議会の進め方について再度説明した。

○「中間まとめ」を中心になってまとめた副会長からの提案・意見

とりまとめをするのに最後はあわただしかった。当初、事務局が作った原案を基に作成する予定だったが、事務局が事務局に対してのものだったため作成が難しかった。そこで、原案を私が作文し、皆から意見をもらい作成した。その経験からの提案として、報告書をまとめるのであれば、時間は取られ負担はかかるが、委員たちの手で書いた報告書が良い。

【会長】 「運営協議会って何するところ？」という意見でグルグル回った。

【委員質問・意見➡事務局回答】

- ・答申の一助になるアンケートを取った方が良い。改革プランが問われているのは「役割や業務内容を改めて検討する」など3つあるが、「役割や事業内容が市民にとっていいのか」「どう思っているのか」、そういうアンケートを取るほうがよい。民間活力については、3つのパターンのメリット、デメリットの一覧表を上げるぐらいのつもりで聞いたほうが良い。

【会長】 副会長に具体的なイメージするものがあるのならば

【副会長】 ゴールまでのスケジュールを早い段階で皆で共有する。例えば、冊子の出来上がりがゴールならば、いつまで議論し、いつから書き始めるのかなど。例えば、書く作業や議論を、4つの視点など細かくグループ別に分けて作業していく。インターネットやオンラインを活用して議論し、それぞれまとめたものを持ち寄り、最後に一つにするなど。

➡運営協議会報告書は委員の方たちで作っていただき、そのご意見を行政が策定する実行計画に反映していく形になる。

【会長】 審議会答申の4つの視点について、グループに分けて議論を重ねることはどうか？

・ 先ずは運協として中間報告を精査してまとめていくという一本の柱のスケジュールを立て、その時に審議会答申の4つの視点を照らし合わせて、過不足があるか、新たな項目を立てた方が良いか精査していく。会長意見は大変だと思う。

【会長】 審議会が審議している生涯学習センターのあり方と、センター運協の意見がかけ離れているように見えるのはいけないと思う。審議会の4つの視点だけではなくそれ以外のことも含めてまとめられればと思う。

・ 運営協議会も審議会も一般の多くの利用者は中で勝手に決めているという感じが強いと思う。利用者の方たちで、生涯学習センターに期待する気持ちを持っている方たちの意見を聞き、お互いに議論したことを反映させたものを運協も審議会もまとめるべき。その一つの方法としてのアンケートだと思うが、もっと丁寧にするべき。利用者の方に、今の生涯学習センターで良いのかという問いかけは、行革プランとは関係なく考える必要がある。審議会ではこう出されている、行革プランでも運営方針について出されている、それについてどう思うかと。委員間でも勉強し、議論しなくてはならない。利用者の方たちの考え、意見を聞くことで委員の方たちの考えも深まる、それをぬかしてはいけない大事なこと。

・ 広い意味での材料がないので、アンケート集計の結果は一つの説得力のある根拠のベースになる。ぜひ多くとってほしい、参考にしたい。

➡今回のアンケート結果を活用いただくのは問題ないですが、別のアンケートを実施するのは即答できない。

・ ○○市の委員をしているときに指定管理者制度について議論をし、報告書を上げたことがある。その際、現場取材したが、市民だけでなく、市民に接している現場の職員にも取材し議論した。特に市民と職員の信頼関係が重要な役割をはたしているが、指定管理者制度と合うか合わないか。指定管理者制度を導入しているところも、していないところも回り、実際に見てこなければわからないこともある。手分けしてそういったところも調査して共有すると良い。

・ 2時間の話し合いが堂々巡りでもったいない。もっとピンポイントで絞って話し合った方が深まる。

・ 弱い人たち（高齢者、障がい者、子ども）を反映した事業をしっかりとやってほしい。

・ 中間まとめでは、冒頭にセンターが果たす役割が書かれているが、最後にセンターが知られていないと言う。これは色々なところで言われていて身動き取れなくなっている。何が問題か、ニーズ・課題のとらえ方がいろいろあってまとまりきれなかったところがある。それを解決するには学習センターの役割をしっかりと押さえなければいけない。声なき声を探してくるのは大変難しいこと。審議会答申の4つの視点の内、学習センターが果たすべき役割で一番困難でやらなければいけないのは「誰でも学べる環境をつくる」「学びの裾野を広げる」「学びのネットワークづくりを促進する」はできると思うが、「課題解決を支援する」が一番難しい。ここのニーズをどうとらえるか、学習センターが果たす

役割は課題を解決する部署ではない。例えば、オレオレ詐欺を無くすのは警察で、社協はそうならないための支援をしている。学習センターはそれに対してどうするのか、やるべき課題・役割は何か、例えば高齢者がこれは何だろうと思って行くところは学習センターではなく高齢者福祉課で課題解決する。センターは何かしらの気づきがあった人に対して、課題に対する認識を深めてもらう。どうしたらいいのか、これから仲間づくりはどうしたらいいのか、そういうところが非常に問題なので、そこに焦点合せてやっていけば進む。センターが果たす役割とニーズを付け合わせていくことだと思う。それを、どうやってやるか。

3 その他

(1) 今後の開催スケジュールについて

事務局から第4回以降の開催日についての提案を説明。

副会長 本日出た意見を深めるにはどうしたらいいかは次回、絞って議論していく必要がある。「市民の声、利用者の声を聞きながら最終的なまとめをやっていった方が良い」という意見を多くいただいた。色々な利用者や団体、職員からも声を聞くために、いつごろどのようにヒアリングするのか、議論していくのか、スケジュールを立てて、決めていければと思う。